

平成 23 年度介護等体験談
特別支援学校〈だいせん聴覚高等支援学校〉

学校内の見学では、青・黄・赤のライトを用い授業の開始を伝え、各教室にテレビを設置し、授業を行っていたり、机や椅子も縦ではなく馬蹄形といわれるような配置方法を取っていた。このように生徒がどのようにすれば学習しやすいかなどよく工夫されていると感じた。

また、先生のお話の中でカギを落としても音が聞こえないので気が付かなかったことや、人に話しかけられても気が付かず、相手に無視をしたと誤解されたこと、友人同士は笑って話しているが、自分は何のことか分からなかったなどの体験談があった。聴覚障がいというと、今までは音が聞き取りにくいまたは、聞こえないことだ。と漠然としたイメージや考えしかなかったが、聞こえないということにより多くのつらい経験をされたことを知り、聴覚障がいを持つ方への理解を深めることが出来た。

初日に先生がおっしゃっていた学校では何が一番大切であるか。を考えてこの体験に臨んだ。私はやはり「生徒」のことを第一に考えることが一番大切であると思った。学校で勉強する生徒がどうすればより良い学校生活を送ることが出来るかを考え、そのために多くの工夫をすることが大切だと思う。こちらで体験させていただき、ライトを用い授業の始まりを知らせ、太鼓を用いた朝礼を行うなど生徒のことを考えて工夫された環境が、整っているように思った。この環境により、生徒は明るく楽しい学校生活を送ることが出来ているのではないかと感じた。また、生徒との交流を通して、人に伝えることの大切さを実感した。

以上